

新規作業倉庫を拠点にビニールハウス・機械導入による規模拡大
すゞき農園経営発展プラン

米子市 ■■■
鈴木 正道

1 はじめに

わたしはアグリスタート研修を経て平成27年2月に施設イチゴで就農し今年で9年目になります。新規就農計画期間中は、イチゴを主体とし、平成29年からは露地栽培のニンジンを加えました。その合間に義母の葉たばこ栽培も一部手伝いながら営農してきました。就農当初から義母の年齢も■歳であったことから葉たばこを経営継承することも考えてはいましたが、就農当初はイチゴの規模拡大や観光農園など、イチゴでの経営展開をイメージしていたことから、まずはイチゴを主とした経営での自立を目指していました。

令和3年には葉たばこの経営継承をし、がんばる農家プラン事業を活用して作業倉庫を建てる計画でしたが、同年8月初めにJTから全国の葉たばこ農家に向け2,000haもの減反政策が発表され、その月の25日には廃作の決断を迫られると言うあまりにも急で無謀な話になり、名義を変更した1年目の作付けで廃作する判断に至りました。認定されたがんばる農家プラン事業の計画変更をして、作業倉庫を建てる計画を進めればよかったですけれどもあまりにも急な話であったために、総合的な判断が出来ずにがんばる農家プランは白紙になりました。しかし、農林課の方から「とっておき事業」に空きが有り、令和3年度内に建てる条件でハウスを1棟増築しました。

現在、イチゴについては、やっと収支がとんとんになってきましたが、全量個人出荷なので、個人の評価がそのまま販売実績につながる状況になります。初年度から朝採りにこだわっていたため、JA直売所への出荷は、昼を過ぎることもありますが、今では多くの専売顧客も出来て、常に完売状態となり生産者としての喜びを感じています。栽培面では、4年間試行錯誤をしてようやく定まった栽培方法により、安定した品質と収穫量の確保ができるようになりました。これからもまだまだ発展性を感じ、がんばる農家プラン事業でハウスをもう1棟増築して、すゞき農園の主力品目にしていきたいと思えます。

ニンジンは、契約栽培と個選、直売所の出荷です。契約栽培は価格の変動がないため安定した収入が見込め、個選と直売所の出荷をさらに増やしていきたいと思えます。ニンジン調整作業等を行う作業場については、祖母が亡くなり義母の弟（叔父：白ネギ専業農家）が家を継ぐことになったため近いうちに実家の作業場を使うことができなくなります。そこで、このがんばる農家プラン事業を活用し、イチゴハウスの増築と、イチゴやニンジンのお荷調整作業などが行える作業倉庫を設け、弓浜特産作物のニンジンを増反しイチゴを主体とした我が家の経営を発展させていく新たな将来ビジョンを立てるに至りました

2 現状

現在の経営品目別の状況

【イチゴ】

ハウス3棟(6m×50m)と育苗専用のハウス1棟(6m×50m)で、無加温の促成栽培を行っています。令和3年度の栽培品種は、章姫、よつぼし、とっておきの3品種で、栽培株数は、章姫2,000株、よつぼし3,000株、とっておき1,000株の計6,000株です。

- 章姫：山陰の冬期寡日照の気候に適した品種で収穫量も多く県内でも主流の品種。育苗期に炭疽病に弱く、発病すると多湿条件で蔓延するため大雨が多かった近年の気候条件には適さなくなっている。
- よつぼし：種子から育てるF1品種。現在は406穴プラグ苗を購入。育苗期は手間かからない。
- とっておき：鳥取県で育種されたオリジナル品種。食味も良く、年々県内でも認知度が上がっている。

これまでの栽培では、苗発注ミスや病害(炭疽病)の発生で苗の確保に苦勞し、葉たばこの収穫作業と重なるので管理面が疎かになり、予定本数の植付けができなかったために反収が上がりませんでした。しかし、今作からは葉たばこが廃作になり苗の管理に集中できるので健全な苗を作れるようになり、約8,000株を定植する予定です。試行錯誤のうえ確立出来た栽培管理で美味しく安定したイチゴの収穫増をめざします。

収穫後の出荷調整作業は、ハウス脇に設置した8畳間ユニットハウスでパック詰めを行っています。

販売先とその割合は、JAの直売所(アスパル)に9割、直売(ハウス横の作業場)1割です。

表1 就農からのイチゴの栽培・販売状況

年	植付本数(品種構成)	出荷量	販売額	備考
H27年	4,000(章姫)	0	0	親苗発注ミス
H28年	4,500(章姫 とっておき)			育苗ミス
H29年	4,200(章姫 とっておき よつぼし)			育苗中炭疽病多発
H30年	4,500(章姫 とっておき よつぼし)			育苗中炭疽病多発
R1年	4,300(章姫 とっておき よつぼし)			育苗中炭疽病多発
R2年	4,700(章姫 とっておき よつぼし)			外注苗炭疽病
R3年	6,000(章姫 とっておき よつぼし)			

集計期間は1月～12月

【ニンジン】

栽培管理

播種は、8月下旬から順に行います。品種は、JA指定品種の彩誉のみで(今作は、JA奨励品種アヤジェンヌ試験作付け予定)毎年台風の時期と重なるため近年は10a～20aが被害に遭っていましたが、前作は台風の被害に遭わず気候も良く豊作となりましたが、単価が安く生産者にとっては厳しい作となりました。

出荷手順

収穫後は、①洗浄機で洗い②水切り後にサイズ選別③個選出荷用に箱詰め梱包④出荷。
販売先は、J Aへの個選出荷、アスパル、生協（契約栽培）です。

表2 ニンジンの栽培・販売状況

年度	作付面積（品種構成）	出荷量	販売額	備考
H29年	20 a（彩誉）			雨害
H30年	40 a（彩誉）			
R1年	60 a（彩誉）			台風 病害
R2年	60 a（彩誉）			台風強風被害
R3年	80 a（彩誉）			

表3 減価償却資産および借用機械の一覧

資産名	導入年	取得価格(円)	補助金名

3 今後の目標

現状を踏まえ、経営発展していくための目標を品目毎に定めた。

【イチゴ】

- 1 反収を増やす ■■■kg/10a → 3,963kg/10a
- ② イチゴの収益を上げる。

【ニンジン】

- 1 反収を増やす ■■■kg/10a → 3,945kg/10a)
- 2 作業効率を上げる。

4 課題と解決方法(対策)

【イチゴ】

- 1 反収 ■■■kg/10a → 3965kg/10a に増やす

課題：炭疽病による欠株（育苗～定植後初期）の多発。

対策：べた置き→育苗棚の新設、自家用育苗品での苗の確保。

ゆくゆくは、全量を自家育苗にする予定である。ハウスの建っている圃場は多雨時に冠水する立地のため現状のハウス床面に直置き育苗様式では夏季高温時の多雨により炭疽病に感染しやすい条件になることがある。この対策として、育苗を高設化し底面吸水できる自動かん水装置の設置（ベンチ育苗棚の新設）により炭疽病菌の感染経路を遮断し健全な育苗環境に整える。

次に、労力競合が課題であったが、葉たばこの廃作によって育苗管理に集中できる状況になり、病害虫に対して早めの対策をとることができるようになった。今まで、育苗後半（8月～9月）は葉たばこの収穫とニンジンの播種作業が重なり、イチゴ苗へのかん水（手かん水では3時間/日を要する）や防除が不十分になり草勢が劣り炭疽病に感染しやすくなっていたが、葉たばこの廃作により作業配分に余裕ができ育苗管理にも集中できる。今作は章姫ととっておき苗は外注に出し、よつぼしはプラグ苗から自家育苗をする段取りだが、令和5年は章姫ととっておきも自家育苗をする。

2 収益を上げる

課題：販売単価を上げるより収量向上。需要に対して出荷の絶対量が足りていない。

対策：作業場の一部に直売所を設け、既存の地元地域の顧客へ、より新鮮な品質のイチゴの提供とお得感+そこからの口コミ拡大で新規顧客の獲得を図る。

イチゴハウスを1棟増築し生産量を確保する。

これまではアスパルでの販売を主に行いお得意さんもついてきているが、近年大小のイチゴ生産者が増えたことで、今後は米子地区でのイチゴ出荷量の増加が見込まれるため、出荷ピークには他農家との価格競争によって価格低下を余儀なくされることから、消費者により近い販売方法の直売を増やしていく。

ただし、販売価格は現状を基準にしていきたい。それは、就農してからの5年間で、アスパルと直売で顧客の獲得ができたのは、美味しいのは最低条件で、朝採りと、価格を変えずに販売してきたことが今の結果につながっていると考える。就農初年度はアスパル日吉津店の売上が●万円であったが、近年からアスパル浜店の売上が上回り、令和3年は、アスパル浜店が●万円、アスパル日吉津店は●万円、直売が●万円であった。絶対量が足りないためアスパル（日吉津店・浜店）と直売では注文を断る状況でした。そのため、収益を上げるには生産力を上げニーズに応えることが第一だと考える。単価や戦略的な販売での収益拡大は、それが実現出来た後での問題になる。

現状は、洋菓子店へ何件か卸したり、コラボ商品開発の話もあるが断っている状況である。この先の計画でハウスをもう1棟増築し、生産量を増やして収益増加につなげたい。

【ニンジン】

1 反収向上 (●kg/10a → 3,945kg/10a)

課題：自然災害（多雨、強風）による減収

対策：排水性の良い圃場の選定と排水対策の徹底および飛砂対策の実施

現在の圃場は、義母が葉たばこ、ニンジンともに収量をあげれる圃場を選抜してきたが、近年の多雨での圃場冠水や瞬間的な強風による飛砂での発芽間もないニンジンの埋没によって出荷品質の低下や減収を招いている。

これに対して、離農したたばこ農家の排水性の良い圃場の新規借り入れを行い、土壤消毒、麦播き、藁をすき込み等の土づくりも実施し災害に備える。

また、飛砂については、淀江地区でも実践事例のある圃場額縁へ緑肥（ソルゴー）による防風壁を設置する。

2 出荷作業効率を上げる

課題：ニンジンの重量サイズの選別に時間がかかる。

対策：全自動ニンジン選別機の導入。

現状では、契約栽培分は3L、2S以外は選別無しでコンテナも用意され集配に来てくれる契約です。個選に関しては、小型の重量選別機（1コンテナごとに一本ずつ重量選別）を使いサイズ分け等箱詰めして出荷する体制です。

これから個選の出荷量も増やしていく事を想定すると、現状だと重量選別に時間がかかり出荷量を増やすためには人員を確保しなければならず、時間短縮や労力削減を考えたなら全自動選別機の導入が一番ベストな選択になる。

機械名	選別能力	6,000本選別時間
小型選別機	1コンテナ(約100本)/10分	10時間
全自動ニンジン選別機	1時間/6,000本	1時間

【共通事項】

1 効率的な作業体系の確立

課題：作業場所の分散と手狭な作業スペース

対策：作業場を一つにまとめて作業効率を上げるために新たに作業場を設ける。

これまでは、イチゴはハウス横のユニットハウスで、ニンジン、葉たばこは義母の家で場所が分散していたため作業ごとに移動していた。現在のイチゴの出荷作業場は現状でも手狭で、今後収量の増加と出荷資材等の置き場所も必要となる。

農業を営む上でいちばん大事なことは作業の段取りと作業効率を良くすることであると考えている。そのためには居住する家と作業場と畑（ハウス）が近くにあり、どの作業を行うにも動線が短くスムーズで時間がかからないのが理想である。一日の作業時間は限られており、一つ一つの作業や別々の作業を効率よくおこなうためにも集約された作業環境を作ることが最大の段取り力につながると思う。

【新規作業場の利用方法】

イチゴ：出荷パック詰め調整作業、直売スペース、資材保管。

ニンジン：洗浄選果および出荷調整、収穫物、出荷資材の一時保管。

役割分担

項目	導入年	事業費	役割分担		
			県	市	本人
収量向上（イチゴ、ニンジン）	R6				○
ハウス（イチゴ）	R6	368万円	○	○	○
排水性の良い圃場の選定と排水対策の徹底及び飛砂対策の実施	R5				○
全自動ニンジン選別機の導入	R6	132万円	○	○	○
作業倉庫建設	R5	1,200万円	○	○	○

